



2002年07月15日

フォルクスワーゲン ニュービートル カップ ジャパン2002第三戦(鈴鹿)リザルト

フォルクスワーゲン グループ ジャパン 株式会社(代表取締役社長:梅野 勉)がサポートする、輸入車初のJAF(日本自動車連盟)公認ナンバー付きワンメイク レース、“フォルクスワーゲン ニュービートル カップ ジャパン2002”(以下:NBCJ)第三戦の決勝が、7月7日(日)、鈴鹿サーキット(所在地:三重県鈴鹿市)にて開催され、ゼッケン55:Team DUO Beetleの坂本祐也選手(エキスパートクラス、以下:Ex)が、引き続き圧倒的な強さでシリーズ三連勝を飾りました。また、クラブマンクラス(以下:CI)では、ゼッケン7:110 RACING Beetleを操る伊藤 与志雄選手が、第一戦(筑波)に続き二勝目としました。

第三戦は、1周2.746mの東スペシャルコースで開催されました。前半に緩やかな上り勾配のコーナーが連続するコースレイアウトは、如何にして車速を落さずに各コーナーをパスしていくかが勝負の分かれ目となります。また当日は、早朝に降った雨により路面は完全なウエット状態。それでも時折顔を覗かせる太陽の陽によって、各チームのマシンの最終調整は、スタートギリギリまで悩まされ続けていました。

午前10:03分、ポール ポジションのゼッケン55:坂本選手、続くゼッケン99:壺林選手、そして、3番スタートのゼッケン33:宮本選手を先頭集団とする、総参加台数20台のニュービートル カップカーが一斉にスタート。確実に気温と湿度が上昇し続ける東スペシャルコース15周の熱いバトルが始まりました。シリーズ後半への大切な折り返し点であるこのレースは、シリーズ チャンピオンを狙う上位3者による激しい首位争いに終始しました。特にレース中盤の2位、3位争いは大いに観客を沸かせ、シケインでの攻防では想像以上にエキサイティングなニュービートル カップの一面を見せていました。

午前10時25分、後続でデッドヒートを繰り返す壺林、宮本両選手を尻目に、安定した走をキープしたゼッケン55:坂本選手が、ポールトゥー フィニッシュでチェッカーフラッグを受け、結果的には、予選4位から大きくポイント アップしたゼッケン2:吉富選手が入賞、第二戦CP美祢サーキットに引き続き表彰台に上りました。一方、CIも今年一番の波乱含みの大混戦となり、その結果、優勝はゼッケン7:伊藤 与志雄選手、2位はゼッケン66:スズキワークスBeetleを操る鈴木 太選手、3位には、MTO Beetleの北山 浩選手が入賞を果たしました。

このように、今年で3年目を迎えたNBCJは、昨今盛り上がりを見せている「NR-A:ナンバー付レース」を代表するレース プログラムに成長し、参加者、観戦者が心から楽しめるナンバー付きレースとしてその評価を益々高めています。なお、シリーズ後半のファースト バトルとなるNBCJ第四戦は、8月18日(日:予選+決勝)筑波サーキット(茨城県結城郡)にて開催されます。

第三戦:エキスパートクラス決勝公式結果

第三戦:クラブマンクラス決勝公式結果

決勝	クラス/予選	ゼッケン	ドライバー/車名	所要時間	累積ポイント	決勝	クラス/予選	ゼッケン	ドライバー/車名	所要時間
1	Ex-1	55	坂本祐也:Team DUO Beetle	22'03.287	93	1	CI-1	7	伊藤与志雄:110RACING-Beetle	22'30.058
2	Ex-4	2	吉富 章:Snap-on Beetle	22'07.234	40	2	CI-3	66	鈴木 太:スズキワークスBeetle	22'30.817
3	Ex-5	4	又多ミツヨシ:VW金沢	22'13.310	34	3	CI-2	50	北山 浩:MTO BEETLE	22'43.511
4	Ex-7	8	梅津則子:ビースクルー	22'15.221	12	4	CI-4	96	黒沢隆一:VW本山・小牧Beetle	22'50.484
5	Ex-2	99	壺林貴也:CRT New Beetle	22'17.344	65	5	CI-5	44	諸江明祐:VW金沢	22'51.569
6	Ex-9	9	藤島敬也:Jubilo-MM Beetle	22'18.418	23	6	CI-6	37	金子 誉:浦安R.T	22'59.063